

貝殻魚礁における

いしゅう

部材密度と蛸集魚類との関係

平成26年度日本水産工学会学術講演会 (2014. 5. 31~6. 1)

発表者：フジたん

学会で発表した内容
について紹介します。



人工魚礁の構造研究は水産資源を効率的に増やすための技術のひとつです。

そこで

貝殻魚礁の内部構造と魚介類の蛸集との関係について明らかにしました！

その結果…

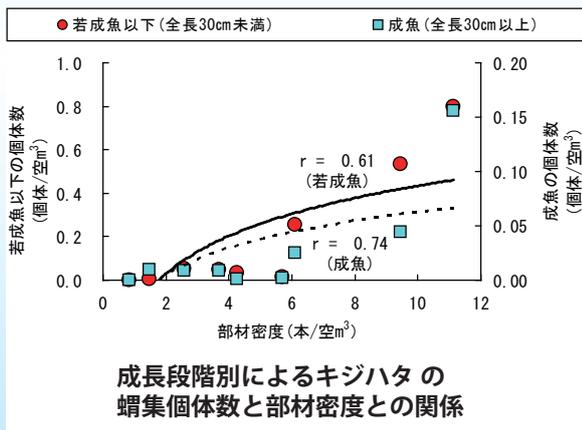
対象とした魚類の多くは
部材密度(貝殻パイプの本数/空³m)との間に
顕著な関係が確認されました！



貝殻パイプ
メッシュパイプ(φ15cm)
にカキ殻が詰まっています。



貝殻魚礁
(シェルナース2.2型)



キジハタは若成魚、成魚とも部材密度が高くなるほどたくさん集まってきました。



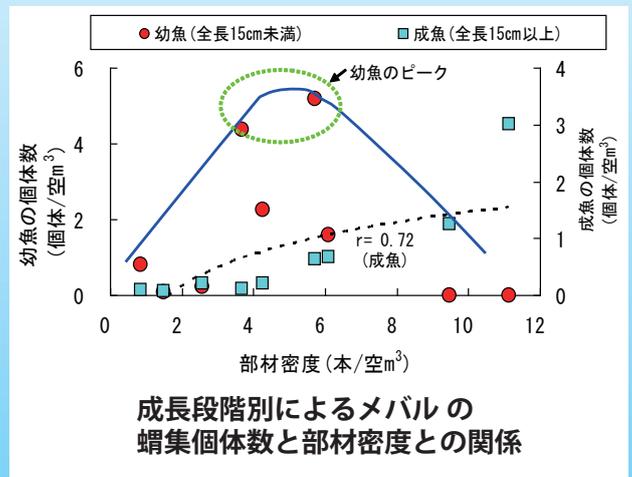
キジタン
(キジハタ)

部材密度が高いと僕たちの食べるエサがたくさんあるよ！



メバル幼魚の個体数は、部材密度が4~6本/空³mで最も多くなりました。成魚は、部材密度が高くなるほど個体数が増える傾向がみられました。

図のように成長段階による違いがみられました。



部材密度が高いと僕たちの隠れ場がたくさんあるよ！



メバルン
(メバル)

ぼくたちの隠れ場にはシェルナース2.2型(部材密度：6本/空³m)が最高だね♪



メバルンJr.
(メバル幼魚)